群馬大学大学院　教育学研究科（教職大学院）　教職リーダーコース
〒371-8510 前橋市荒牧町 4-2 TEL 027-220-7223 URL https://sites.google.com/gunma-u.ac.jp/kyoshoku

実習免除で，変わること，変わらないこと

本年度教職リーダーコースからは，第 15 期生の 8 名が専門職修士の学位を授与され修了することとなりました。平成 20 年の創設以来，教職リーダーコース（講座）の修了生は計 203 名。いよいよ 2 百人を超えるまでになりました。4 月には，第 17 期生を迎えることになります。この第 17 期生からは，これまでのカリキュラムと大きく変わる点が一つあります。それは，院生の申請により，実習単位の一部が免除されるという点です。

群馬大学教職大学院では，これまで現職の院生であっても実習の免除は行っていませんでした。他の教職大学院では，一定の教職経験を有する現職の教員について実習を免除するところも少なくないなかで，本学では経験に関わらず，全員に長期間にわたる実習を課し，実践の水準維持を図ってきたのです。

令和 2 年の改組前までは「課題発見実習」と「課題解決実習」があり，「課題発見実習」では附属 4 校園での実習も行っていました。改組後は「高度経営力・指導力開発実習」となって，M1 の附属 4 校園実習は無くなり，代わりに先進校視察や他機関での研修，置籍校での実習等を自由に組めるようになりました。実際にはどの M1 も置籍校に出向いて次年度の実践に向けた情報収集や準備に多くの時間を充てていますので，実質的には実践（改組前で言えば課題解決実習）の期間を M2 だけでなく，M1 の期間も含めた形へと拡張することになったと言えるでしょう。実際，改組後には，M1 の毎時のゼミで「置籍校に行って状況を確認してきました」とか「調査をしてきました」といった話題が出ることが多くなった印象があります。まさに「大学と現場の往還」を地で行っているという手ごたえがありました。

次年度（第 17 期生）から導入の実習免除では，M2 の実習の免除を想定しています。M1 の実習については変わりませんので，置籍校での事前の情報収集や実践準備などができなくなることはありません。また，「課題研究」は免除されないこともあり，M2 時に指導教員が定期的に勤務校に出向いて指導を重ねるという点も，これまでと変わらないことの一つです。これからも指導教員が一丸となって“手取り足取り”で院生の研究を支えていくつもりです。

変わるのは，実習の免除により「実習録」の作成が不要になることです。勤務しながら実習録を書くのは負担が大きく，かねてから院生さんの評判も悪かったので，これは大きいことかも知れません。M2 の負担軽減については，県教委からも要望が寄せられていたところでした。

このように，第 17 期生からは「実習の免除」という大きな変更があるのですが，学校が直面する課題の解決と同僚教職員の職能成長を目指す人材を育成するという，教職リーダーコースのポリシーは変わりませんし，指導も従来通りです。今後とも引き続き教職大学院をご支援くださいますよう，修了生のみなさん，そして教職大学院教員 OB の先生方にもお願いいたします。

最後に，お知らせです。令和 6 年 12 月 14 日(土)と 15(日)の 2 日間，日本教職大学院協会研究大会が荒牧キャンパスで行われます。全国の教職大学院での取組の発表や，院生さんや修了生のポスター発表，パネルディスカッションも行われます。オンラインでの配信も行いますので，ぜひ予定に入れておいてください。詳細については，追ってご案内いたします。　　（音山若穂）

退任に当たって

立見 康彦

教員を退職して，１０年間，教職大学院や学部でお世話になりました。退職後，教育公務員弘済会，県教育振興会，日本教育会，日本教育新聞，退職校長会，地元自治会，家業の農業と沢山の仕事をしていました。その中で，群大大学院や学部での仕事が一番充実していてよかったと思います。

教育は，縁を大切にし，その縁を良縁にしていくことだとし，その面白さを実感してきました。ゼミ指導で縁のあった人は，全部で２０人います。とてもいい研究をしてくれましたし，その後もご活躍してくれています。それを，とても嬉しく思っています。「教員の職能成長と倫理」，「学校評価とスクールリーダーシップ」の講義も思い出深く感じています。

学部では，「社会教育」に関する講座を担当し，とても多くの受講生があり，「社会教育」に関する力をもった教員や公務員を輩出できたことは大きな喜びです。

私は，教員の仕事は好きだし，いい仕事をしたいと心掛けています。いい仕事をするためにはその力が必要です。教職大学院ではその力を付けてくれるところだと確信します。

皆様の今後のご健勝ご活躍，教職大学院のますますの充実，発展を祈念しまして，感謝とお礼の言葉といたします。

お世話になりました

野村 晃男

2019 年度に本学大学院教育学研究科（教職大学院）に着任して以来，５年間という短い間でしたが，たいへん充実した日々を送らせていただきました。こうした勤務ができたのは，同僚の先生方やお世話になった関係機関などの皆様方のお陰だと，深く感謝しております。

とりわけ，教職大学院で一緒に学びを深められた院生の皆さんの存在が大きかったと思っています。赴任当時は，学校運営コースを担当していましたので当然のことでしたが，教職大学院拡充後も，授業や校内研修の改善・充実を手立てに，学び合う職員づくりをテーマにした院生さんを担当することが多かったように思います。組織を動かすことの難しさや面白さを一緒に考えることができ，常に新鮮な気持ちで課題研究に関わることができました。

院生や修了生の皆さんには，群馬の教育のために，群馬の子供たちのために活躍していただくことを期待しています。

最後になりますが，皆様の今後のご健勝とご活躍，本学のますますのご発展を心から祈念し，退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました

教職大学院での経験

髙橋 望

2012 年度に着任して以来，約 12 年間，私が教職大学院で仕事をすることができたのも，同僚の先生方，院生のみなさん，関係の方々のご支援があったからこそであり，深く御礼申し上げたく思います。

着任以前，大学院生時代に学校経営や教育行政に関連する書籍等を読み漁り，勉強はしていたつもりでしたが，いわゆる「机上の空論」であり，分かったようで分からない感覚が自分の中にありました。着任後，院生のみなさんや実務家の先生方と議論をさせていただいたり，課題研究にて学校を訪問させていただいたりする中で，次第に書籍等で学んだ“学校”の実像が感じられるようになり，同時に，“学校”の奥深さや楽しさも感じることができるようになっていきました。それは，私にとってはとてもありがたい経験であり，本学だか

らこそ，そのような経験をすることができたと思っております。

私自身，群馬大学教職大学院に育てていただきました。勝手ながら，学ばせていただいたことを糧に，そして礎に，今後の研究者人生にいかしていければと思っております。お許しいただけるようであれば，これから少しずつ，“恩返し”をさせていただく機会をいただければ嬉しく思います。本学のますますのご発展を心から祈念しております。

退任のご挨拶

三澤 紘一郎

群馬大学には 2016 年 3 月から 2023 年 9 月まで 7 年 7 か月お世話になりました。この間，教職リーダー講座，学校教育講座の先生方を始め，多くの方々のおかげで充実した日々を過ごすことができました。改めて深く御礼を申し上げます。

教職大学院の授業では，2016–2019 年度までの前半 4 年間は一人で「教員の倫理」を，2020–2023 年度までの後半 4 年間は立見康彦先生との TT で「教員の職能成長と倫理」を担当いたしました。そこで出会った現職の先生方やその予備軍だった皆さんには圧倒されるばかりで，教えることよりも学ぶことのほうが多い時間でした。振り返ってみると，それは教育の最前線で奮闘されている（しようとしている）方々の強さや崇高さに打たれたということなのではないかと思っています。

「花よりも花を咲かせる土になれ」――松井秀喜がいた頃の星稜高校野球部の山下監督のことばらしいのですが，このことばは教育者の理想のような気がします。それを体現しているような方々にたくさん出会えたことが，私にとって教職大学院での最大の思い出であり，希望となっています。

群馬大学教職大学院のいっそうのご発展，ご関係の皆様方のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

令和 5 年度　群馬大学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）
課題研究公開報告会・やまなみ倶楽部総会（2024 年 2 月 10 日）

2024 年 2 月 10 日(土)，令和 5 年度の課題研究公開報告会が開催されました。昨年度は，残念ながら天候不良によりオンラインでの開催でしたが，今年度は無事に対面での開催となりました。

群馬県教育委員会教育次長 栗本郁夫様のご挨拶の後，教職リーダーコース所属の専門職学位課程 2 年生 8 名から，およそ 2 年にわたる課題研究の実践とその成果についての発表がなされました。

発表に関して，教職大学院の教員，現役の大学院生などの出席者からの質問や院生勤務校の管理職の先生方からコメントが示され，活発な議論が行われました。

群馬県教育委員会学校人事課 管理主事 井上詔司様，及び，群馬大学大学院教育学研究科 教職リーダーコース課題研究評価部会部会長 懸川武史先生より総括講評をいただきました。

発表者の皆さんが，置籍校の課題解決に向けて充実した研究を実施してきたことがよく伝わってきました。

優秀賞

コミュニティ・スクールの
仕組みを生かした学校と地域の
連携・協働体制の構築
―地域学習カリキュラムの実践と改善を
図る校内研修を通して―

高崎市立吉井西小学校　岡村朋也

勤務校においては，2020 年以降の新型コロナウイルス感染症の流行も大きな要因となり，教職員間のコミュニケーション不足，個々の力を協働の場で発揮できていないことが課題でした。また，勤務校は 2000 年以降，県内の学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の先進校として活動してきました。その中心として，学校のニーズと学校支援ボランティアを結ぶ役割を，学校支援センターの 5 名の学校支援コーディネーター（以下，コーディネーター）が担っています。し

かし，先述の感染症流行により，学校と地域の連携関係が希薄化し，これまで実施することができていた地域と協働した学習がうまく行われていないということも課題でした。

そこで本研究では，これまで教職員のみで行うことが一般的だった校内研修に，コミュニティ・スクールの強みを生かし，コーディネーターをはじめとする地域人材にも参加してもらいました。そして，地域との関わりが深い教科である生活科と総合的な学習の時間の地域学習単元の授業づくりと実践を協働で行い，教職員間，さらには学校と地域の連携関係の構築を図ろうと考えました。また校内研修の一環として，教職員と地域ボランティアの意見交換会を 5 月・8 月・12 月に実施しました。これらの手立てにより，教職員と地域人材が意見を交わす機会が増え，これまで停滞していた学校と地域の連携関係が活性化されました。校内研修の場では，双方が協働しながら授業づくりを行い，各学年のニーズに応じた地域人材との授業実践につなげることができました。その結果，子どもたちは，地域の方々との関わりの中で，より主体的に課題解決に向かうことができました。この 2 年間の研究について，教職員・地域人材双方から，成果があったという意見が多数あり，学校と地域の連携関係構築について，一定の成果を上げることができたと考えます。

このような研究ができたのは，高橋望先生，野村晃男先生，大島みずき先生，共に学んだ 15 期生の先生方のおかげです。ありがとうございました。また，ご指導・ご協力くださった勤務校の管理職や，教職員の皆さん，そして，たくさんの地域の皆様にも重ねて感謝申し上げます。これからも，「理論と実践の往還」を意識しながら，さらに自己研鑽を重ねて参ります。

課題解決実習実践検討会　報告

教職リーダーコース 2 年生の 8 名は，置籍校において課題解決実習に取り組んできました。各学校で行われた実践報告会の様子を紹介します。なお，掲載順は学籍番号の順です。

伊勢崎市立境剛志小学校　筏井隆平
2023 年 11 月 10 日(金)

11 月 10 日（金），教職リーダーコース 2 年生の筏井隆平さんの実践検討会が，勤務校である伊勢崎市立境剛志小学校において開催されました。

筏井さんの課題研究のテーマは「道徳科授業の質の向上を目指して－授業改善と校内組織への働きかけを通して－」です。筏井さんはこのテーマに，①「教材分析シート」の活用や発問，板書の工夫などを通じた授業改善，②「パッケージ型ユニット」の導入，家庭・地域との連携などカリキュラム編成，③校内研修での教材研究など校内組織への働きかけ，といった手だてを通じて取り組んできました。

当日は，こうした研究成果の一環として，「支えあい」をテーマとした 4 時間構成の「パッケージ型ユニット」の第 2 時となる授業「ブランコ乗りとピエロ」（[相互理解，寛容]，文科省『私たちの道徳　小学校 5・6 年』ほか）が公開されました。教材文のあらすじは，ほかの演者のことを考えず，自身の持ち時間を超過して演技して喝采を浴びるブランコ乗りのサムに憤慨していたサーカス団リーダーのピエロが，演技終了後に精根尽き果てた様子のサムの姿を目にして，認めるべきところは認めるようになる，というものです。

授業では，考えたことを隣同士で交流する場面などを頻繁に挟みながら，サムの行為に立腹するあまり，人としての彼を丸ごと嫌悪するところから，サムの姿勢の認めるべきところは認めつつ，改めてほしいことを指摘するようになったピエロの認識・心情の変化が丁寧に押さえられました。

研究発表および授業参観・授業検討会には，三木俊幸校長をはじめ境剛志小学校の先生方はじめ，大学院指導教員の３名，市内他校の先生方，本コース１年生３名が参加し，グループに分かれて活発な討議が行われ，筏井さんの授業の良かった点とともに，課題についても忌憚のない意見が多様に出されました。最後に，伊勢崎市教育委員会学校支援係の櫻澤直明指導主事より，本時を貫く中心発問の明確さ，これまでの積み重ねを通じた発言しやすい授業の雰囲気，児童の意見が反映された板書などについて高い評価をいただくとともに，登場人物の道徳性についての読み取り，話しあうことから聴きあうことへの発展など課題のご指摘もいただきました。

（山崎雄介，平林茂，鈴木豪）

高崎市立東部小学校　今井紀恵
2023 年 11 月 28 日(火)

11 月 28 日(火)に教職リーダーコースの今井紀恵さんの実践発表(公開授業)及び実践検討会が勤務校である高崎市立東部小学校で行われました。

今井さんは,「自分たちで考え，判断・決定し，行動できる児童を育成する学級活動―学習サイクルに基づいた係活動と学級会を通して―」をテーマに実践研究を重ねてきました。その中で,「①問題の発見・確認→②解決方法等の話合い→③解決方法の決定→④決めたことの実践→⑤振り返り→次の課題解決へ」という学習サイクルを，担任を務める 5 年生の学級の児童が自分で回せるようになるための支援を積み重ねてきました。特に係活動では児童が「学級を楽しく，仲良く，賢くする活動を行うこと」を目的として，その頭文字をとった「タナカさんを目指す」ことを合言葉にして係活動を行ってきました。

実践発表は，２学期の係活動の振り返りから問題の発見・確認を行った後の，具体的な解決方法を話し合って決定し，次の実践に繋げるための授業を公開しました。前時に，児童は係ごとに学級の他のメンバーからの評価（学級のみんなを楽しく・仲良く・賢くできていたという評価である「Good タナカさん」と，改善するともっと学級のみんなを楽しく・仲良く・賢くできるだろうという「Motto タナカさん」）を数個ずつ受け取りました。その中から改善の必要がある「Motto タナカさん」を１つ選択し，実際何ができるかを個人で考えて付箋紙に記述しました。本時では，それぞれの児童が考えたことを係で発表し合いながら，改善策について具体的に話し合うことができていました。授業の後半では，各係で話し合われた改善策の発表（ロイロノートの提出箱などの ICT を活用）とその内容についての質疑応答・共感を通して，児童の中でさらに具体的な実践へのイメージが膨らみました。今井さんは授業の中で本時の活動が学習サイクルのどこに位置するのかを児童全体に確認していました。また，各係の話合いの進捗を把握した上で，児童が自分たちで考え，具体的な改善策について学級として合意形成できるよう丁寧に支援していました。

実践検討会では,「主体的に活動に取り組んでいた児童の姿」と「解決方法の話合いと決定の過程で有効だった教師の支援」という二つの視点から，グループに分かれた活発な意見交換が行われました。それぞれのグループからは，児童が学習サイクルを理解できているので解決方法の話合いや決定がスムーズに行われていたことや，それを支えている今井さんの支援や学級経営についての言及がありました。最後に，高崎市教育委員会の星野浩指導主事より，本実践において係活動の目的と振り返りの視点(タナカさんを目指す)が児童に共通理解されていることや，自分たちの活動に関わる Motto の前に Good が十分伝えられていることの良さなどを評価していただきました。また，児童が自ら学習サイクルを回していくための原動力としての他者評価について今後の示唆もいただきました。

実践発表はおおよそ 30 名の方々に参観していただき，実践検討会には東部小の先生 12 名，近隣の小学校の先生 4 名，高崎市教育委員会の指導主事 1 名，教職

大学院の院生３名，教職リーダー講座の教員として川野，佐藤，立見，大島の４名が参加しました。実践の公開，検討会にご協力いただきました高崎市立東部小学校の武井校長先生，中島教頭先生をはじめとする先生方，当日参加していただき，深い議論を交わしていただいた皆様に深く感謝いたします。　　（大島みずき）

富岡市立富岡中学校　上田将大
2023 年 10 月 27 日(金)

10 月 27 日，教職リーダーコース 2 年生の上田将大先生の実践発表と実践検討会が，勤務校である富岡市立富岡中学校で行われました。上田先生の研究テーマは「生徒エージェンシーを高める授業改善―中学校数学科を中心とした自律性支援を通して―」です。

生徒エージェンシーは,「変革を起こすために目標を設定し，振り返りながら責任ある行動をとる能力」(秋田他, 2020)とされ，その考え方は次期学習指導要領にも反映されるとも言われています。生徒エージェンシーは，一種の生徒の主体性と考えることもできます。現行の学習指導要領においても「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められており，現時点でも生徒エージェンシーを育むことは重要であると考えられます。

上田先生は，生徒エージェンシーを育むために，生徒の自律的な学びを支える自律性支援と生徒と共同で授業を構成することを意識し，数学を中心とした授業実践を行ってきました。日々の数学授業では,「生徒に学習方法を選択させる」「生徒の学びたいことを引き出し，それを授業で扱う展開にする」などの複数の点に注意しながら，授業を構成しています。また,「授業を振り返る会」として，生徒たちが自身の授業中の様子を動画で振り返り，自分たちの学びの良い点や改善点を考える実践も行ってきました。

加えて，生徒エージェンシーが発揮された様子や，良い自律性支援の様子を通信の形で発行したり，校内研修において自律性支援の重要性を確認する研修を開催したりし，学校全体で生徒エージェンシーを育むことにつながる実践も行ってきました。

実践発表と実践検討会には，実習校の校長先生・教頭先生・先生方，西部教育事務所指導主事の岡部隼人様，近隣の小中学校の先生方，本学教職大学院生等，合計 30 名が参加しました。上田先生からの研究説明に

続いて，1 年生の数学授業が行われ，参加者はそれを周囲で参観しました。生徒たちは，y=－2x のグラフがどのようになるのかについて，数学班（数学授業における学習グループ）ごとに，自分たちで座標平面の意味やグラフのかき方を調べ，授業の最後では，代表班の生徒が他の生徒たちに向けてかき方を説明していました。生徒たちが互いに話し合いながら，教科書や教師から能動的に情報を得て，グラフのかき方を学んで行く様子が見て取れました。

続く研究協議では，まず，授業に出席した 5 名の生徒に対して，参加者からの質疑応答が行われました。「数学班での学びなど，生徒からの要望によって授業方法が変わっていること」「当初よりも生徒が発言する機会が多くなっていること」などが生徒の言葉で語られ，生徒エージェンシーを育む授業実践ができていることや，生徒と教師が共同で授業を構成していることが生徒にも理解されていることが伺えました。

その後，協議会の参加者がいくつかのグループに分かれて協議を行った後，岡部指導主事様から指導助言をいただきました。「主体的・対話的で深い学びの実現が目指されている一方で，教師が話しすぎてしまうのは，いまだにしばしば見られる課題である。上田先生の授業では，先生が生徒を動かすのではなく，生徒が先生を活用し，動かして授業が構成されている様子が見られた。生徒が必要感をもって授業に臨めている」というご講評をいただきました。

最後に本学 立見康彦客員教授がお礼を申し上げ，閉会しました。　　（鈴木豪，立見康彦，佐藤浩一）

高崎市立吉井西小学校　岡村朋也
2023 年 11 月 6 日(月)

教職リーダーコース２年の岡村朋也さんの実践検討会が，１１月６日に勤務校である高崎市立吉井西小学校で行われました。

岡村さんの研究主題は「コミュニティ・スクールの仕組みを生かした学校と地域の連携・協働体制の構築～地域学習カリキュラムの実践と改善を図る校内研修を通して～」です。

前年度，勤務校の職員に行った聞き取り調査から，個々の教員は熱意と指導力を備えているが，その力を協働の場で発揮できていないこと，教職員間のコミュニケーションの機会が不足していることなどの実態が明らかになりました。また，コミュニティ・スクールに関して，地域の幅広い支援に感謝しつつも，支援を頼むだけの一方通行で，学校支援コーディネーター等との連携が十分にできていないという課題も明らかになりました。地域の方々からも，コロナ禍で地域と学校の教員とのつながりが薄れていることや，地域の行事や伝統も子供達に伝えられず，なくなってしまうのではないかという心配の声を聞くことができました。

そこで，先行研究等を基に，地域連携担当教員の働きを活性化させ，学校と地域による意見交換や地域人材参加型の校内研修を行うとともに，生活科や総合的な学習の時間で行う地域学習の充実を図ることにしました。

まず，前年度の１１月の校内研修において教職員に，１２月にはコーディネーターさん方に，さらに，１月には学校運営協議会で委員さん方に実践の概要を説明し，協力を得ることができました。

研修主任である岡村さんは地域連携担当を兼ね，地域の方々を招いた意見交換会を行い，学校と地域で育成を目指す児童像「探究心をもち，他者と協働しながら自分事として課題を解決できる子」を創り上げました。また，校内研修全体会にも地域の方々に参加していただくことで，学校と地域が協働することの意義を双方が実感することができました。

実践検討会当日，４年生の担任である岡村さんは，総合的な学習の時間「地域の伝統芸能について考えよう」の１２時間目を公開しました。地元の吉井太鼓や獅子舞・神楽舞を体験した子供達が自分達で発信した

いことや解決したい課題をまとめ，今後の見通しをもてるようにするという内容でした。子供達がタブレットを操作しながら，グループごとに意見交換したり，学級全体で発表し合ったりする積極的な姿を見ることができました。また，子供達が学校支援コーディネーターさんにアドバイスを求める場面もたくさんあり，地域人材と共に創る魅力ある授業となっていました。

その後，検討会が行われました。岡村さんの課題研究成果発表とそれに対する質疑応答の後，５つの班に分かれて公開された授業についての協議に移りました。授業参観しながら書いた付箋を「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の３つの観点でＹチャートに分類しながら意見交換を行うとともに，協議の結果を全体で共有しました。

最後に，高崎市教育委員会の山田芳紀指導主事から指導講評がありました。

岡村さんの課題研究について，校内研修に地域の方々に入っていただくことで，研修内容が深まっていることや，生活科と総合的な学習の時間を軸とした地域学習が充実できていることについて，肯定的な評価をいただきました。　　（髙橋望，野村晃男）

群馬県立高崎北高等学校　岡本隆司
2023 年 11 月 9 日(月)

11 月 9 日，教職リーダーコースの岡本隆司教諭による公開授業（一二年生による探究活動の成果発表会）が，勤務校である高崎北高等学校で実施され，その後，実践検討会（授業研究会）が開催されました。岡本先生の課題研究テーマは「普通科進学高校におけるインターンシップの充実～探究活動への位置付けと事前・

事後学習の再考を通して～」です。

高崎北高等学校は，県内でも代表的な普通科進学校であり，従来は高校時代に職業経験などを体験するインターンシップなどへの取り組みは不十分でした。しかし，令和元年度から群馬経済同友会や外部アドバイザーと高校が連携し，一年生 240 人全員の県内での生徒のインターンシップを実施することに果敢に取り組みました。その後コロナ禍によって，オンラインでのハイブリッドな形態に変化したりしましたが，生徒自身が一部は希望して自己開拓して県外の新たな企業や各種団体にも職業経験をするようになりました。それが令和 2 年は 28 名もの自己開拓者が生まれ，令和 3 年はコロナ禍による全面中止を経て，令和 4 年は 91 名の自己開拓者，本年度令和 5 年はなんと 149 名の生徒が，学校側が提供したものではなく，新たにインターンシップ先を自己開拓して，「探究型インターンシップ」に取り組んできました。11 月 9 日には，一年生は自分が企業などでインターンシップをして得た経験を，今度は他の生徒に発表するということを，240 名全員が，一人十分で 10 人が 24 会場で，110 分にわたり発表していました。

これが二年生ではさらに各自が「テーマ探究」に深化・進化していきます。テーマはメイン・クエスチョン（MQ），サブ・クエスチョン（SQ）を立てて探究します。これらは新聞記事などをもとにした社会課題をまず発見し，それを専門家（大学教授や企業経営者など）にインタビューをして内容を検討し，自分なりにそれらを深めて調査発表をしていきます。この中間発表が，同じ 11 月 9 日に，やはり 240 名全員によって，一人六分で 10 人が，24 会場で 60 分にわたり発表していました。この二年生の発表がなされてから，一年生の発表がされるという順序・時間割であり，お互いの発表時間は異なるため，相互に視聴することができます。先輩の発表を聴いて，自身のプレゼン能力を高めることにも繋がります。

以上の生徒による発表が終了した後，県内でこうした「探究型インターンシップ」を取り入れようとする総勢十三校（17 名）の中学・高等学校の先生が参加し，高北の教員主催の実践検討会（授業研究会）が実施されました。その中で最初に，選出された一年生二人による「探究型インターンシップ学習」の報告が，この生徒たちによってなされました。二人とも高校一年生によるものとは思えぬ，大学生並みの素晴らしいプレゼンテーションであり，一人は博物館などの学芸員の業務をインターンシップで経験し，もう一人は英語のイマージョン教育をしている幼稚園のインターンシップを経験し，自身の将来の職業について具体的なイメージを深めていることが十分うかがえました。その後，岡本先生による現時点での課題研究の成果の発表がなされ，上述の探究活動の歴史的経緯や今後の課題などが説明されました。岡本先生の課題研究が着実に進んでいることがうかがえる発表でした。

公開授業には，上記のように県内の高等学校でインターンシップを既に導入していたり，今後導入を考えている上記の他校の先生方が参加するとともに，置籍校の校長ほか管理職，校内の多くの先生，本学からも教職大学院の院生 2 名，指導教員の山口が参観しました。

この数年のコロナ禍もあり，この探究型インターンシップが中断されることもありましたが，そうした苦難を経て，確実に高崎北高等学校内でこの活動が浸透しています。指導教員としては，この探究活動が実証的にも効果があることを検証していただきたいと存じます。おそらく今流行の「非認知能力」を育てることに役立っていることでしょう。まずはキャリアレディネスなどが高まっていることを確認していくことになります。岡本先生はもともと優れた教師としての力量がある方ですが，この探究活動に大変な努力を重ねてこの活動を発展させておられます。それを属人的なものにとどめず，できるだけこの知見を他の学校にも広げるための英知を論文にまとめてください。この二年間，岡本先生の学びに多大な支援をしていただいた高崎北高等学校の皆様に深く感謝いたします。　　（山口陽弘）

渋川市立渋川中学校　上ノ内道

2023 年 11 月 27 日(月)

上ノ内さんの研究主題は「若手教員を育成する校内体制の構築と実践～メンターチームによる若手教員へ

の支援を通して～」です。

前年度，勤務校の職員に行った聞き取り調査や観察から，若手教員に対して，個々の教員による自発的な支援があること，初任者研修におけるメンター研修では話しやすい雰囲気があるなどの強みが明らかになりました。一方，学年により支援体制の差が大きいこと，校内で組織的な取組が弱いこと，メンター研修の実施日やテーマ設定があいまいなど，課題も明らかになりました。

また，若手教員は，教科指導，生徒指導，学級経営について，困り感や悩みを抱えていることが分かりました。

そこで，個々の若手教員の悩みや困り感を踏まえ，若手教員と中堅・ベテラン教員による協働的な学びの場づくりを通して，若手教員育成に向けた支援を行おうと考えました。

具体的には，メンターチームが中心となって行う初任者研修の年間６回のメンター研修を「定期的な研修」として年間計画に位置づけました。また，若手教員の希望や必要感に応じて行う「即時的な研修」も設定しました。

メンターとメンティは，教科と学年のつながりを重視しながら人選するとともに，研修主任である上ノ内さんがメンティの困り感に応じて，研修のテーマや講師を調整してきました。

６月２０日は「学級経営で大切にしていること」，８月１日は「教科指導で大切にしていること」，８月２１日は「行事指導（体育大会や合唱コンクール）のポイントについて」，１０月４日は「三者面談に向けて（進路指導について）」というテーマでした。前回までの反省を基に，メンターとメンティに分かれて話合いをした後，一緒に話し合うなど，形を工夫しながら，充実した内容となってきました。

実践検討会当日は，「道徳教育について」というテーマのメンター研修を公開しました。

上ノ内さんが進行役となり，前半では，「意見が出ない」「読み取り道徳になってしまう」「内容項目に迫る方策」など若手教員の困り感に沿って意見交流が行われました。また，後半では，２年「足袋の季節」を教材文として，前半の解決策を意識しながら，具体的な発問や活動など授業づくりについて話し合いました。

その後，実践検討会が行われました。上ノ内さんの実践説明と課題研究成果発表の後，質疑応答が行われました。メンター研修の参加者からも研修の成果についての感想等が発表され，充実した意見交換ができました。

最後に，渋川市教育委員会の小暮和宏次長から指導講評がありました。

上ノ内さんの課題研究について，先行研究を参考にしながら，渋川中学校の実態を踏まえ，組織的な若手育成の校内体制が整っていること，メンター，メンティ両者にとって学びのある研修となっていること等について，肯定的な評価をいただきました。

（髙橋望，野村晃男）

太田市立九合小学校　髙橋克行
2023 年 12 月 15 日(金)

教職リーダーコース２年の髙橋克行さんの課題研究にかかわる実践のまとめとして，髙橋さんがリーダーとして主宰するメンター研修が，12 月 15 日に勤務校である太田市立九合小学校で行われました。

髙橋さんは，「メンター・OJT 研修を通した困り感・多忙感の解消」というテーマを設定して課題研究を進めてきました。

髙橋さんの当初の問題意識は，学校の「働き方改革」でした。しかし，勤務校においては業務自体の削減・精選など物理的に時間外労働を減らす手だてはすでに相当実施されています。そこで，メンター研修を中心として，教員側の業務遂行能力の向上を実現することで，個別の業務にかかる労力や所要時間の削減を通じて，間接的に「働き方改革」に貢献することを目指してきました。

こうした実践の一環として，学校の危機管理，保護者対応などをテーマとしたメンター研修や，メンティ

以外も参加した OJT 研修として，英語の授業づくりについての研修などを髙橋さんは企画してきました。その一環として，研修にメンティとして参加している教員がそれぞれ，勤務校で授業力に定評のある先生方の授業を参観するという取り組みが 2 学期後半に行われました。12 月 15 日当日は，5 名のメンティから，それぞれ参観した授業の概要と，そこで何を学んだかが報告されました。

授業を観せてくださった先生の中には，授業当日の放課後に研究会を開き，教科書会社のワークシートをそのまま使うのでなく，教材文との関係での誤りを修正するなど自分なりに改訂する過程を紹介してくれた方もあったということです。そのほかにも豊かな学びがあったことは，メンティからの報告がすべて，予定の報告時間に収まらなかったことに象徴されています。

研修の最後には，後藤秀幸校長，石原真恵教頭から，髙橋さんの実践に対する評価と，ねぎらいの言葉をいただきました。　（山崎雄介）

館林市立多々良中学校　増山肇
2023 年 12 月 14 日(木)

12 月 14 日（木），教職リーダーコース 2 年生の増山肇さんの実践検討会が，勤務校である館林市立第一小学校で行われました。

増山さんは，生徒指導・教育相談にあたって児童の Well being を達成するためには，何より教師が余裕を持ち，仕事内容を充実させることが不可欠であると考えました。そこで本研究では，全ての児童を対象とした支援シートを活用しながら児童理解と支援チームの定着をはかることで，生徒指導を計画的・積極的なものとし，生徒指導・教育相談を「ジョブクラフト」化を目指しました。取り組みの柱となるのは次の 3 つです。

1 点目は，「児童生徒理解をはかるための取組」です。児童支援シートを活用し，複数の教師で複眼的な広い視野から児童生徒理解ができるようにしました。2 点目は，「支援チームの定着の取組」です。本実践では増山さんの所属学年である 4 学年を中心に，チームづくりを進めました。道徳の授業をローテーションで行ったり，教師が一人で抱え込まずに，どんなことでも話せるようにするための雰囲気づくりをしたりするとともに，学年，生徒指導・教育相談部会との連携にも取り組みました。そして 3 点目は「ソーシャルスキルトレーニングの取組」です。児童のソーシャルスキルを高めることで児童が SOS サインを発しやすくなり，教師対児童，児童同士の共感的な関係が作られることで，より一層児童のニーズにあった支援が可能となると考えられます。

検討会では増山さんの一連の取り組みを振り返った後，活発な意見が交わされました。「道徳の授業をローテーションで行うことで他のクラスの児童と関わりをもつことができ，児童理解につながった」，「児童支援シートには児童のプラスの情報も書かれており，積極的な生徒指導していく方向性が表れている」といった意見があげられました。本研究全体としては「児童のウェルビーイングを達成させるためのきめ細かな支援と，同時に今求められているのは教員の業務改善働き方改革である。児童のウェルビーイングと教師の業務改善の両立をさせようとしているところにこの研究の価値があるのではないか」という指摘もありました。

一方，「支援シートの活用においては，特定の児童だけに目を向けてしまうと内容に偏りがでてしまうことに留意する必要がある」，「問題の背景には保護者がいる。家庭での問題が児童の行動にどのように関係するのかを洞察することが大切である」といった課題もあげられました。これからの研究の方向性としては，「多忙も『時間的に切る』のは困難なところまできている。その中で，多種多様な学校課題が次々に起こる中で，チームで力を合わせて一人ひとりがスキルをアップさせるということが必要である。その方法の一つとして，全員で一つのことを考え合うチームづくりとチームの定着は重要である」という意見も出されました。

本研究は取組としてはスタートアップの段階であり，本年度は増山さんの所属学年を中心に行われました。今後はこの実践を全学年に発展させ，学校全体で体系的に児童理解とチーム支援を進めていくことが課題となります。児童と教師の双方の Well being を達成すべく，増山さんは修了後も引き続きこの実践を進めていきたいと考えています。

（文責：音山若穂）

修了生の活躍

2023 年度中の，これまでの修了生の皆様のご活躍についてお知らせいたします。修了生のご活躍を大変嬉しく思います。

群馬県国際理解教育研究会「帰国教師実践報告会」

2023 年 5 月 27 日，4 期生(2012 年度修了)の小菅望美先生(高崎市立北部小学校)が，ドイツの日本人国際学校における 3 年間の派遣経験について講演をされました。

第 21 回ぐんま教育賞　優秀賞

森坂　実紀人 教諭（2013 年度修了，5 期生）

町田　朝子 教諭（2018 年度修了，10 期生）

※前橋市立明桜中学校の学校長および他 1 名の教諭との共同受賞。

学位記伝達

（2024 年 3 月 22 日）

令和 5 年度の群馬大学学位記授与式が 3 月 22 日(金)に行われました。ALSOK ぐんまアリーナでの式典の後，各コース・専攻に分かれての学位記の伝達および表彰状の伝達が行われました。ぐんまアリーナでの式典には，教職リーダーコース 2 年の岡村さんが，学位記授与式受領代表者の一人として出席されました。

修了された先生方の今後のご活躍を祈念いたします。

（鈴木　豪）

皆様へのお願い

教職大学院も設立から時間が経ち，やまなみ倶楽部のメンバーもたいへん多くなりました。メーリングリストに登録されているアドレスを変更された先生もいらっしゃるのではないかと思います。

お手数ですが，最新の連絡先メールアドレスを教職リーダーコース教員までお知らせいただけましたら幸いです。

(右 QR コードからもメールを送れます。「風」担当の鈴木豪 宛。go.suzuki@gunma-u.ac.jp)